

## 第2回 MICE 国際競争力強化委員会 議事録

日時：平成 25 年 3 月 7 日 金曜日 10 時 00 分～12 時 30 分

場所：中央合同庁舎 3 号館 4 階幹部会議室

出席者：

### 【委員長】

西村 幸夫 東京大学副学長・教授

### 【委員】（50音順、敬称略）

石井 清昭 日本コンgres&コンベンションビューロー(JCCB)副会長  
石積 忠夫 日本展示会協会会長  
川村 益之 JTB コーポレートセールス 代表取締役社長 (JTB 常務取締役)  
小堀 卓 パシフィコ横浜 代表取締役社長  
定保 英弥 帝国ホテル 専務取締役  
玉井 和博 立教大学観光学部特任教授  
近浪 弘武 日本 PCO 協会代表幹事  
(欠)塚本 稔 京都市副市長  
中西 充 東京都産業労働局長  
生江 隆之 日本経済団体連合会 観光委員会企画部会 部会長  
松山 良一 国際観光振興機構理事長  
分部 日出男 日本コンベンション事業協会会長

### 【オブザーバー】

芝田 政之 外務省大臣官房国際文化交流審議官  
(代)根来 恭子 文部科学省大臣官房国際課 課長補佐  
(代)吉田耕一郎 経済産業省商務情報政策局参事官

### 【事務局】

井手観光庁長官  
加藤観光庁審議官  
高見観光庁参事官  
河野観光庁総務課長  
大野観光庁企画室長

## 1. 開会挨拶（井手長官挨拶）

- ・ 第1回委員会開催以降、小委員会で議論を続けた。今日の議論はマーケティングの中間とりまとめを中心に行う。
- ・ プレーヤーが意識を持って進めることも大事である。さらに、都市戦略の中に MICE を位置付けていくことも重要だろう。
- ・ 各都市にはオリンピック誘致の勢いを MICE に対しても持っていただきたい。

## ■ 委員紹介

- ・ 前回欠席委員、本日欠席委員、オブザーバー紹介

## 2. 国際会議の国内側主催者からのヒアリングについて

福島県立医科大学神経内科 宇川義一教授  
(日本神経学会 理事 国際対応委員)

## 3. 資料説明と委員会メンバーによる意見交換

### ■ 資料②-1「第1回及び第2回企画小委員会における議論のポイント」について

#### 川村委員

- ・ 日本と海外では MICE に対する意識が異なる。日本では観光の延長であるのに対し、シンガポールは自国産業の育成のための装置として MICE を捉えている。
- ・ 以前、ある国の副大統領と話した際にも、MICE 誘致は産業誘致のためであるとはっきり言っていた。
- ・ 他国のプロモーションの実態を分析し、日本における MICE の位置づけを再考すべきではないか。

#### 玉井委員

- ・ MICE の推進に当たっては国家のブランド戦略が前提にあるべきである。

### ■ 資料③-1「中間とりまとめ（案）」について

#### 石井委員

- ・ 今まで国の支援がない中で、地方のコンベンションビューローは工夫を凝らして努力してきた。都市の絞り込みを行うとしても、今まで努力してきたコンベンションビューローを見捨てるような内容にすべきではない。絞り込みは大事だが、その絞り込みの仕方は工夫をすべきだろう。そういう意味でも、提言 10 (国内関係者の連携強化) は非常に重要だと思う。
- ・ 東京のように一都市で自己完結できる都市と、一都市では不足する機能がある都市があるため、都市間で相互補完できれば規模の小さい案件であれば海外と伍して誘致できるのではないか。また、このような取り組みが産業としての MICE を育成するのではないか。

#### 小堀委員

- ・ 主催者からの悩みを聞く機会が多く、それらの意見も踏まえると、政府からの財政支援について検討するとともに、お金のかからないような取り組みについては早急に着手していただきたいと考えている。特に規制緩和は重要であろう。ビザの手続きの簡略化やプライオリティレーン、JNTO の寄付金要件緩和等も検討すべきであろう。過去にあるイベントを日本に誘致しようとしたら、ビザ手続きが煩雑で間に合わなかったこともあった。
- ・ 招請状の発出はお金のかからないところであると思うが、省によっては慎重なところもあるので、観光庁から働きかけてほしい。
- ・ 都市の絞り込みについて、国として育成したい産業に関連する国際会議があった場合にはその誘致を支援するという形式も検討してはどうか。支援対象を分野別に決めれば、施設規模に関係なく支援できるのではないか。
- ・ 文部科学省に対し、教育改革の中で、会議誘致をした教授の評価を高める等の取り組みを期待している。
- ・ 誘致に際して事務局機能が足りないことも問題となっているので、誘致段階では JNTO が支援を実施し、誘致成功後は民間が支援を実施するスキームも検討すべきだろう。
- ・ また国内学会の中には国際化しているものもある。このような国際化の動きを支援するのも一つの方法ではないか。

#### 分部委員

- ・ 国際学会の誘致に立候補するにはリスクがある。誘致に成功するまでに学会の資金が底をついてしまうこともある。アンバサダー制度等の支援も検討すべきではないか。

#### 近浪委員

- ・ 政府の体制もしっかりしたものを作ってほしい。人・モノ・金が大事であるが、なかでも人材が最も重要だと考えている。
- ・ MICE 産業はまだ認知度の低い業界であるため、政府の MICE 担当者が業界の内情を理解するには 3 年かかると考えている。官僚も長期間にわたり同じポストで活動することで、現場と海外との橋渡し、ロビー活動等でリーダーシップをとってほしい。
- ・ 日本で開催する案件でも国際本部の指定会議支援業者（PCO）が入る場合が増えているが、日本での開催は言語、商習慣の違いという障壁が大きいと指摘されることが多い。それを踏まえると国内 PCO としてもまだ取り組む余地があると考えている。

#### 中西委員

- ・ マーケット分析をきっちりしたうえでターゲットを絞り込み、誘致活動に取り組む必要があると考えている。
- ・ 海外競合国がどのような活動をしているのか、ミーティングプランナーが何を考えているのか、ある程度国が情報提供したうえで都市が戦略を練れるとよい。
- ・ データについても、有望市場やローテーションの動き等、基本的なものについては観光庁や JNTO が継続的に提供してほしい。それらがあれば都市も自前で戦略等を考えることができ

るだろう。

#### 定保委員

- ・ 課題の羅列にとどまらず、実際に取り組む必要があるが、11 施策を全て同時に取り組むことはできないので優先順位をつけることが必要だろう。
- ・ 特に市町村の首長の意識を変えることが大事であると考えている。観光のみならず MICE も都市競争力のために重要であることを認識してもらう必要があるので、提言のうち 3（都市競争力の強化ツールとしての MICE の活用）と 2（MICE 戦略の必要性）、6（誘致における重点対象分野の設定）をワンパッケージとして首長意識変革に取り組んではどうか。その上で国としてやるべきことも書き込むべきだろう。

#### 生江委員

- ・ グローバルスタンダード、オールジャパンというスタンスをしっかりと持ったうえで、具体的な都市の絞り込みを表明していただきたい。
- ・ 実際に具体的に絞り込むと軋轢が出ると想像される。軋轢の発生を踏まえた覚悟をしないと焦点がずれてしまうだろう。

#### 小堀委員

- ・ 課題は出尽くした感があるので、具体的に今後どう動くかについて検討したい。
- ・ 国としてどのようなバックアップができるか、具体的に議論できるとよい。

#### 石積委員

- ・ 国際会議を増やすための大局観が欠けているのではないかと。先日、新エネルギーに関する展示会を開催したが、セミナー（会議）も大盛況であった。当社が主催する展示会参加者の内、セミナー受講者は年間 10 万人にのぼる。またその内、約 1 割が海外からの参加者である。1 社だけでこれだけのボリュームなので、展示会併設の会議参加者は国内で 20～30 万人いると思われる。
- ・ 展示会に国際会議が併設される形式は世界の主流となっている。展示会と連携した国際会議を増やすという視点も持つべきだろう。また、ここに PCO が入り込む余地も大いにあり得るだろう。
- ・ 国際会議は言葉の壁があり誘致しにくいということだったが、展示会は品物が優先され、それを見るために世界中から来場者が集まる。品物を見にきた来場者にセミナーを提供して成功しているといえる。
- ・ さらに、展示会と同時開催するセミナー（会議）は集客力があるので、今後、展示会とのタイアップによって国際会議開催数を増やすのは有効な戦略になると思う。日本にはまだ強い技術があるので、日本はメッカになりうる。セミナーそのものが国際化しているので、学会だけが国際会議とは言えないのではないかと。

#### 川村委員

- ・ 提言 10（国内関係者の連携強化）について、行政トップがセールスを行う際、MICE に対す

る誘致や考え方がそれぞれ異なっており、整理されていないと感じる。また人材も足りていない。

- ・ まず国際会議が日本で開催されることが第一に重要である。国内で MICE スタandard ができれば、東京ともう 1 都市の協働開催も可能になるだろう。ただし、そのためには国内各都市の特色、それぞれの都市で何ができるかを打ち出す必要がある。
- ・ 日本なら“面”で売り出すのも可能であると考えている。実際、WTTC の東京・仙台の 2 都市開催は好評だった。

#### 井手長官

- ・ 20 年振りにコンベンション業界を担当し、あまり進化していないことに驚いた。議論は進化しているものの実行は進んでいない。日本の ICCA 会員登録数はむしろ減っている。
- ・ この会議で課題をまとめるだけで物事が進むわけではなく、本日参加いただいた関係者に今日の提言内容を常に意識していただく必要があるだろう。各自が自分の持ち場でコミットすることが大事であると考えている。他のプレーヤーにお願いするのも大事だが、自らが動くことが重要である。
- ・ 予算を要求するのであれば、要求した側もそれなりに貢献をする必要がある。汗をかかずにただ乗りすることは許されない。
- ・ 都市の絞り込みに当たっても、その都市が汗をかけるかどうかを議論する必要がある。精神論ではなく、施設整備を含め、やるべきことに対し汗をかけるかどうかであり、汗をかけた都市は伸びていくし、汗をかかない都市は置いていかれるだけのことだろう。
- ・ 今後の取りまとめについて、まとめた項目内容が全て実現できるものではないだろうが、一方で取り組みが進まないままに担当者が変わるとまた議論がストップしてしまうことを懸念している。
- ・ トップの意識改革は都市だけでなく、各組織すべてに必要とされることだろう。

#### 高見参事官

- ・ 規制緩和の話や、招請状が簡単に入手できないことはわかっており、できるだけ関係省庁に働きかけたい。
- ・ 国としてどの分野を重視するかという点は、観光庁が結論を出せるものではないと考えている。本日配布した資料の中に、国として検討すべき事項を示しているが、他省庁とどこまで協議できるかについても考えていきたい。
- ・ 海外の情報収集については観光庁としても努力するつもりである。JNTO 在外事務所の海外ネットワークも使いたい。
- ・ ただ、海外情報も ICCA 総会等に参加すれば簡単に入手することができることを知っていただきたい。コンベンションビューローは財源が少なく ICCA 総会等に参加するための出張旅費が出ないと聞くと、情報収集はこの業界では必要不可欠ということを特に都市、コンベンションビューローのトップには意識していただきたい。
- ・ 産業育成という視点も引き続き強化していきたいが、観光庁ができることには限界があるので産業界側からも声を挙げていただきたい。
- ・ 展示会との連携は、国際会議と展示会の垣根が低くなっているため、分けて考えるべきでは

ないと認識している。MICE を“ツール”として使うという考えに基づけば、国際会議と展示会の双方を視野に入れるべきなのは自明の理だろう。ただ、議論発散を避けるために今回の委員会では「国際会議」という言い方で絞らせていただいた。

- ・ 広域連携については、総論については誰も反対しないだろうが、個別にどう作るのが課題になると考えられる。実態として、ある一都市が案件誘致に成功した際、それを抱え込んでしまうことはよくある。誘致関係者が意識を持っていただき、個別に事例を作り出すことによって、広域連携に対する意識が浸透するのではないか。国としても広域連携は推進していきたいと考えている。

#### 中西委員

- ・ ユニークベニューについていつも問題になるのは消防法や食品衛生法である。可能であれば運用緩和を働きかけていただくとありがたい。
  - ・ 国際会議参加者に無料交通パスを出したいとは思っているが、交通局との調整が難航する。海外事例を研究していただき、調整の進め方を示していただけるとありがたい。
  - ・ 羽田空港や成田空港に歓迎バナーを出すために、空港内に場所を確保していただき、各都市が共同で使えるような仕組みがあるとありがたい。
- 資料④「直ちに取り組むべき施策」、資料⑤「MICE マーケティングにおける課題について（主要ポイント）」について

#### 中西委員

- ・ 都市を絞り込むのであれば、その基準や支援内容がどのようなものになるのか、早めに情報提供をいただくと都市としても検討をスタートできる。

#### 4. 委員会の今後の進め方について

- 資料⑦「今後のスケジュール」について

■ 委員長まとめ

- ・ その他、ご意見等があれば、一週間を目処に事務局までご意見をお寄せいただきたい。

■ 閉会

- ・ 次回開催は5月頃を予定

以上